

な か ま

福岡県知的障害者施設家族会連合会 会報

発行
福岡県知的障害者
施設家族会連合会
(略称：福施連)

編集
会
広報委員会

〒812-0854
福岡市博多区東月隈
3-1-4-106
☎/FAX (092) 503-0579

作ろう 地域共生ホーム

小さな改善の積み重ねから

小賀久教授熱く語る

令和3年2月14日クローバー

ラザにて、福施連と福岡県知的障がい者福祉協会共催の今年度第2回目の研修会を、北九州市立大学の小賀教授を講師に迎えて開催しました。

冒頭、共催の木高福祉協会会長のご挨拶では、「今後実施されるコロナワクチンの接種は65歳以上の高齢者と同時期に行われる事が望ましい、施設で感染者が出た場合入院は厳しい。園内隔離も健康な利用者との区分け支援も難しい」と苦慮されているようでした。

小賀先生は「地域共生ホーム」の本の巻末にある「点検シート」レベル4以上に該当する施設を地域共生ホームと認め、レベル3以下の評価科目は速やかに家族会が施設と誠実に話し合いをもち、改善を求めています。

きましようと話されました。

法制度の改善については、小賀先生が10年以上も北欧四カ国の社会福祉を現地で研究され、特にデンマークの親の会と交流し、活動のやり方を研究してこられた経験が語られ



ました。

デンマークの親の会は、地方議会や国会議員に制度改正を求めて活発に意見交換を行い、問題点を指摘し、障害者の人権軽視の優生思想と闘い、制度改正の運動をたゆみなく続け、現在の豊かな福祉を実現しているとのことでした。

そのための活動資金も、宝くじ収益の一部を貰ったり、自前の土地をグループホーム建設地に国や地方自治体に貸したり、障害者の保険事業で年間数億円の収益を上げたりして、会は16名程度の専従職員で運営されているそうで驚きの内容でした。

あきらめない活動こそ

我が子らを人質にとられているような思いを捨て、今まで多くを学んできた知識を力にして、障害のある人達の幸せを願うことは障害のない人の幸せを願う事にもなります。

その願いを行動に移せるかどうかで地域共生ホームが実現するか、幻に終わるかに懸かっています。

久留米市への請願活動 今後の進展に期待

令和3年1月27日、久留米市議会に全施連請願4項目の採択を求めるため、久留米市役所に公明党市議の田中功一議員を八木会長と田中副会長が訪問しました。

市役所の小会議室で請願4項目の取り扱いについて協議しましたが、久留米市議会では政府への請願と「議員意見書」の取扱いが、他市と違っているようで田中議員との理解の一致に時間がかかりました。

久留米市議会での意見書が、当方に説明がないまま文面変更される場合があり、それでは入所施設の厳しい内容も、家族会の切なる願いもよく理解してもらえない恐れが残り、請願扱いを要請しました。

意見書扱いであれば3月議会で可決も可能とのことでしたが、福祉現場の我が子らの暮らしの内容や職員不足による支援の厳しさ等を理解し

て頂くことも、重要な活動目的であるので、年度明けの議会開催までに議会各派と意見交換を進め請願採択に向けて活動することになりました。

「コロナで活動不足

第3回理事会開催

3月28日13時半から福祉連第3回理事会が開催されました。

コロナ問題で、理事会成立が危惧されましたが、委任状を含め17団体の出席があり会場は久しぶりの顔も見られました。

八木会長の開会挨拶と直近情勢である県で起きた精神科病院で、複数の職員が発言できない患者にセクハラ行為をさせて笑い物にした事件の新聞報道を例にした障害者差別の根深さの話がありました。

議事は年度方針に対する活動と

報告、その成果と反省の報告・年間支出の仮決算報告が行われました。

仮決算では、コロナ問題で会合や活動が予定通りに出来なかったために、予算が昨年より繰越残高がふえました。

分科会では、各施設毎に多少異なるコロナ対策の中で施設と家族会の関係の状況を話し合い、情報交換を行いました。

加入施設で

クラスター克服

昨年12月、障がい者支援施設母原に於いて、コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。

12月初旬に利用者数名に高熱があり、9名にPCR検査を実施し、6名が陽性とわかりました。保健所の指示で利用者及び職員全員の検査を実施した結果、利用者・職員で16名が陽性と判明し、その後も断続的に発熱症状がみられ総数42名となりました。

クラスター発生後は、徹底した感染対策と保健所からの医師派遣や他法人からの応援等を受けながら、施設内で治療及び経過観察を行いました。

また経過の良くない人は救急搬送での入院対応をして、施設が通常に戻ったのは1月19日と1カ月以上要しました。

その間、私も保護者は、せいぜい利用者・職員に栄養ドリンクの差し入れするのが精一杯でした。

職員の皆さんは過酷な環境の中で、感染の恐怖と闘いながらの懸命の支援に、心から感謝の思いで一杯です。この様な経験は二度としたくないと改めて感じた所です。



見えぬ差別 親の目から

養徳苑 八木 トミエ

私の長男は、20年前に47歳でこの世を去り、次男は重度の知的障害者です。

共働き家庭であったため近くの県立児童施設に入所させましたが、当時の障害児の親たちの多くは障害をもつ我が子の教育を受ける「権利」について全く無知に等しく、私もその一人でした。

一般家庭の子供は鉄筋コンクリートの校舎で勉強しているのに、県立でも施設内の障害児たちは、園内に点在するトイレもない廃屋寸前のあるばら屋の教室で、職員室はガタピシのプレハブの建物でした。

しかしその粗末な学校？の存在すらも親たちは意識せず、ただひたすら手が掛かる我が子達の面倒を引き受けている施設職員に頭を下げ続け感謝していました。

こうした障害児教育の明らかな差

別待遇を、同じ敷地にあっても見ず、感じず、異議も唱えず、心有る教師の話からようやく気づき始めても、親・家族なるが故の無知と、深すぎる遠慮は、結局差別思想に通じることだったのです。

私は今も我が子への申し訳ない気持ちで一杯です。

施設保護者会紹介

あすなる学園

障がい者支援施設母原は、北九州市小倉南区平尾台の裾野にS51年に開設され、障害児施設「あすなる学園」と同じ敷地にあります。

保護者会の主な活動は、毎月1回の定例会議、年1回の総会、年3回以上の勉強会を実施しております。

定例会議では、施設役員より月間の行事経過や今後の予定を報告して頂き、意見交換しています。

家族・利用者とのバスハイク、学園祭での出店、職員との懇親会開催や施設行事にも積極的に参加してい

きょうだいの目から見た家族会

ひびき学園 矢野 宏之

最近、入所施設利用者として、親の高齢化が進み、家族会の活動もその影響でおぼつかなくなりつつあります。私は「利用者の兄」という立場で保護者会の会長をつとめさせていただいています。ひびき学園家

ます。今の施設が古くなっており、近く建て替えを行う予定になっています。昨年は、コロナの関係で定例会議の休会や、レク行事も十分な活動ができませんでしたが、職員・保護者が協力して、利用者が安心して楽しく過ごせる環境作りを目指していきたいと考えています。



皆と一緒に・・・

族会の構成員も、きょうだいやいとこなどの親族の参加が増えてきています。

このような状況において、率直な感想として「利用者との関係性はどうであれ、その置かれている環境にもっと興味をもって欲しい」と感じます。質や量として比較できないにしても、利用者に対する親愛は、親に比べるときょうだいの方が希薄なのかもしれません。

しかし、血を分けたきょうだいが出ない環境に置かれるのを看過する訳にはいかないと私は思います。家族会活動は、利用者の安心・安全・快適を確保するため又全国の同じ環境の方々がよりよい生活を送ることができるようになる事であると理解しています。

親・きょうだいなどその関係性に関わらず、差別や虐待など、様々な闇を抱える利用者の現況をまず知ることから始めることが、より活発な家族会になることに繋がるのではないかと考えています。

＝力を合わせて共生ホームの実現を＝

2・14 研修会アンケート・感想

コロナ問題で参加者は30名と少数ではありましたが、以下のご意見が寄せられました

Q 今日の研修会は如何でしたか。

A よく判ってよかった 24名

A まあまあだった 3名

Q 今後どうした勉強をしたいか

A 今日のテーマでもう一度 15名

A もっと知りたい虐待防止法 8名

◆ 親も遠慮せず職員の質の良さを願っています。

◆ きょうだいもいなければ後見人は最後までみてもらえるのか勉強したいと思う、等々。



当たり前の暮らしができる地域共生ホームを

養徳苑 川添 マサヨ

社会福祉が最も進んでいるデンマークの障害者支援はレベルの高い福祉制度に守られ 羨ましい限りです。

障害のある人達が人間として当たり前の暮らしができる、安心・安全・快適な環境が整った手本にしたい国に思えます。

支援のあり方も、親同士がしっかり話し合い要望し協力する。改善すべき問題は国や地方自治体と交渉し協力して実現に向けて努力されている。

講演資料と話の内容を参考にして、自分達の家族会と振り返り、会全体を見直しながら家族は、思いや要望を出し合い討議し、施設間の事は意見交換の場で協議する。地域との交流についても議案に入れる。当たり前の暮らしができる理想の地域共生ホームに近づくと為まずは、家族の意識改革を提案したい！

学び、声をあげ、前進しよう

蓮の実団地 横山 緑

コロナ禍三密を心得、開催された研修会は「地域共生ホーム」を編さんされた小賀先生が講師とあって多くの出席があり、改めて家族会員の意識を感じることでした。

まずは、家族会が学び一人一人が声を挙げることが一歩ずつの前進と知り、現在も福祉連が目指す国会への「請願4項目」を地域議会に賛成承認してもらい、国会への提出を各地重ねることで、国の法律化する手順など、会員一人一人の声が集まり、重なり、成就し、利用者皆の笑顔が連なることを教えてもらいました。

習った事を受け止めて行動しよう。まず、地域の議員さんに声掛けしてみようではありませんか。

編集後記

最近新聞・テレビで女性差別事件がいろいろ報道されています。我国では古くから「女賢しうて牛売り損ね」「女三人寄ればかしまし」「女三界に家無し」など女性を卑しめる諺は多くあります。

最近の森JOC前組織委員長の差別発言は世界を駆け巡り、とうとう退任に追い込まれました。

少し前には、合格点の女性受験者を結婚・妊娠・出産で仕事をしないとの理由で不合格にした有名医科大学がいくつかあって世の中の批判を浴びたこともありました。

我国は世界経済フォーラムの男女平等度は153ヶ国中121位で国会の男女格差も凄まじく、衆議院では10人に1人、参議院も4人に1人です。

障害者に優しい北欧四ヶ国・地方議会の約4割は女性議員です。

障害者の人権尊重は女性の人権尊重と直結しているのでしょうか。